

**東日本連携・創生フォーラムinさいたま**  
**東日本連携・創生（首長）フォーラム 議事概要**

〔開催概要〕

- 1 開催日時 平成27年10月26日（月）13：45～17：00
- 2 場 所 ラフォーレ清水園（さいたま市大宮区）
- 3 出席者

工藤壽樹	函館市長
鹿内博	青森市長
谷藤裕明	盛岡市長
高橋善健	秋田市商工部部長
小林香	福島市長
品川萬里	郡山市長
篠田昭	新潟市長
高橋正樹	高岡市長
本川祐治郎	氷見市長
田中幹夫	南砺市長
山野之義	金沢市長
久保田高文	長野市商工観光部部長
清水勇人	さいたま市長

ファシリテーター 藻谷浩介 株式会社日本総合研究所調査部主席研究員

司会 唐橋ユミ

オブザーバー参加自治体 八戸市 鈴木伸尚 商工労働部東京事務所所長  
山形市 鈴木悦子 商工観光部次長  
仙台市 柳津英敬 経済局国際経済・観光部部長  
那須塩原市 片桐計幸 企画部部長

来賓 鍛冶克彦 経済産業省関東経済産業局長  
小鞠昭彦 財務省関東財務局金融安定監理官  
永嶋善隆 農林水産省関東農政局次長  
藤井健 国土交通省関東地方整備局副局長

〔議事次第〕

- 1 開会

- 2 基調講演 「地方から創生する我が国の未来」 石破茂地方創生担当大臣
- 3 東日本連携・創生フォーラム
  - (1) 首長フォーラム  
テーマ討議  
自由討議  
とりまとめ
  - (2) 来賓総評
  - (3) フォトセッション  
東日本連携宣言  
写真撮影  
共同記者発表
- 4 閉会

〔資料〕

- 資料 「地方から創生する我が国の未来」 石破茂地方創生担当大臣
- 資料 東日本連携・創生フォーラムinさいたま2015
- 資料 東日本連携・創生フォーラム宣言

○司会 定刻となりました。首長フォーラムを始めさせていただきます。

まず初めに、このフォーラムのファシリテーターをご紹介します。株式会社日本総合研究所調査部主席研究員の藻谷浩介様です。（拍手）

藻谷様は、ご案内のとおり、平成の大合併以前の3,200市町村を全て、また世界70カ国を訪問され、地域の特性を多面的に把握され、地域の振興を積極的に展開されています。近著として、「デフレの正体」、「里山資本主義」がごございます。

続きまして、参加自治体の皆様をご紹介します。後ろ向きになっている方もいらっしゃいますので、ぜひ会場の皆様にお顔がわかるようにご挨拶をいただけますと幸いです。

函館市長工藤壽樹様。

○工藤函館市長 工藤です。どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

○司会 青森市長鹿内博様。

○鹿内青森市長 どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）

○司会 盛岡市長谷藤裕明様。

○谷藤盛岡市長 よろしくお願いたします。（拍手）

○司会 秋田市商工部部長高橋善健様。

○高橋秋田市商工部長 よろしくお願いたします。（拍手）

- 司会 福島市長小林香様。
- 小林福島市長 小林でございます。よろしくお願いします。（拍手）
- 司会 郡山市長品川萬里様。
- 品川郡山市長 品川です。どうぞよろしくお願いします。（拍手）
- 司会 新潟市長篠田昭様。
- 篠田新潟市長 よろしく申し上げます。（拍手）
- 司会 高岡市長高橋正樹様。
- 高橋高岡市長 よろしく申し上げます。（拍手）
- 司会 氷見市長本川祐治郎様。
- 本川氷見市長 どうぞよろしくお願いいたします。（拍手）
- 司会 続いて、南砺市長田中幹夫様。
- 田中南砺市長 よろしく申し上げます。
- 司会 金沢市長山野之義様。
- 山野金沢市長 こんにちは。（拍手）
- 司会 長野市商工観光部部長久保田高文様です。
- 久保田長野市商工観光部長 よろしく申し上げます。
- 司会 オブザーバー自治体として、八戸市様、山形市様、仙台市様、那須塩原市様。  
ご来賓としまして、経済産業省関東経済産業局長鍛冶克彦様。（拍手）  
財務省関東財務局金融安定監理官小鞠昭彦様。（拍手）  
農林水産省関東農政局次長永嶋善隆様。（拍手）  
国土交通省関東地方整備局副局長藤井健様。（拍手）  
そして、今回の座長は、開催地でございますさいたま市の清水勇人市長です。
- 清水さいたま市長 よろしく申し上げます。（拍手）
- 司会 それでは、座長、よろしくお願いいたします。
- 清水座長（さいたま市長） それでは、開催地ということで、恐縮でございますが、座長を務めさせていただきたいと思っております。皆様、よろしくお願いいたします。
- まず、本日の討議の進行でございますが、座長であります私から討議のテーマについて提示させていただきたいと思っております。そして、その後、ファシリテーターの藻谷先生からご出席の方々にご意見を伺っていただきまして、その議論を尽くして、再び座長である私から取りまとめ事項として皆様にお諮りしていきたいと思っております。
- 討議テーマにつきましては、皆様方から拍手をいただいて、承認とさせていただきたいと思っております。
- それでは、ファシリテーターの藻谷浩介さん、よろしくお願いいたします。
- 藻谷ファシリテーター 皆様、こんにちは。藻谷でございます。今日はこういう大変大きな会にファシリテーターの大役をいただきまして、本当にありがとうございます。のこのこ私が出てまいって、責任のある、それぞれの地域を背負って活動している首長の皆様の司会をするのも僭越ではあるのですが、特に今日お集まりのまちはなめるように見て歩いておりますので、一応全国へ行っているという触れ込みで全国へ行っているのですが、今日お集まりですと、少なくとも10回以上はそれぞれ行っていますので、また地元にどういう人たちがいるかというのも多年いろいろなか

かわりを持っております。その方々がこの交通至便なさいたま市、そして日本有数の古社である氷川神社、出雲大社とほぼ同格の氷川神社の前にこのとおりに集まるといのはかなり歴史的なことをごさいます、そういうことを皆様のご発言を引き出しながら確認してまいるとい役をやらせていただきます。どうぞよろしくお願します。

さて、今日は幾つかのテーマに分けてお話を進めさせていただきます。テーマは4つばかり設定させていただいております。ご案内かと思ひますけれども、ここさいたま市、そして大宮区は、東日本の結節点でございます。ちょっと恥ずかしいのでプロジェクターを切りかえていただくと、今さらながらでございますが、一瞬だけ確認させていただきたいのですが、プロジェクターが切りかわりましたら、5つの新幹線が集まるといことなんですけれども、新幹線が5つ集まっているといだけであれば、さいたま市といのは分岐点ですといことで終わってしまうんですが、実はここは分岐点ではなくゲートウェイになっているといことについて、東京に住んでいる方は割に常識としてご存じだと思ひんですが、もしかするとご存じない方もいらっしゃるので、1分だけ確認をさせていただきます。

今ここでマークが出ているのが、さいたままでございます。5方面の新幹線とはすなわち、今度、函館まで間もなく、何とあと半年ないわけですが、延びる東北・北海道新幹線、そこから分岐する秋田新幹線、同じく山形経由で新庄まで行く山形新幹線、そして新潟に向かう上越新幹線、そして高崎から、今、金沢まで延びました、やがてその先へ行くとい北陸新幹線、これがこのさいたまを通るわけですが、「俺はただ通っているだけで、その後東京に行くんだよ」とい方もいらっしゃると思ひます。ですが、このゲートウェイさいたま市の役割は、東京への通過点ではございません。首都圏に住んでいる方なら多くの方がご存じだと思ひますが、東京駅まで乗って行ってしまますと、首都圏の南側に行くのには速いのですが、北側に行くのは必ずしも速くございません。私事ながら、私は渋谷駅が一応最寄りの拠点ターミナルになるのですが、渋谷から、一年中この5つの新幹線を使うんですけれども、北に行くときには私は東京駅に出ません。湘南新宿ラインに乗りまして、真っすぐ大宮まで参りまして、ここで乗り換えております。毎週2回ぐらいは大宮を通っているのでございます。これは、新宿ですと、なおのこと、そのようなことになります。あるいはここから西側、中央線沿線の方々も、新宿まで中央線に出てきて湘南新宿ラインで来たほうが、東京まで行って乗り換えてもいいんですが、実は東京へ行くとい出戻り感が非常に大きゅうございます。

ましてや埼玉県民、皆さんにも埼玉といのは余りご存じない人もいらっしゃるでしょうが、人口約800万人、ヨーロッパにいきますとスイスと同じ大きさです。県民所得も大変高うございまして、もし国として独立していれば、ヨーロッパであれば立派な一つの国とい大きさでございまして、それに加えて東京都1,000万人のうちの恐らく半分以上の人が大宮が玄関口になっております。そのような非常に大きな拠点駅でありまして、これは横浜には申しわけないのですが、新横浜とは全く機能が違っております。

さらに、この東京－大宮間は、速度制限があるために、新幹線が26分かかります。逆に言うと、皆さんもご存じのとおり、仙台から大宮までだと1時間10分で着きます。

その後東京までもう30分、これは長いのでございます。ですが、もし大宮に集まれば、大宮までだとすぐ来られます。北陸からも2時間何十分とありますが、実は1時間台で来られます。新潟もそうであります。1時間台で大宮までだと来てしまう。逆に東京からだと、東京駅に集まるより、むしろ大宮のほうが集まりやすい人は実は多いんです。そういうことで、ここに北のゲートウェイさいたまに、そういう場所に皆さんがこうやって集ってくださった意味があるわけでございます。

くどくどつまらないことを最初に申し上げまして失礼いたしました。この話はこれでおしまいです。

さて、そのような首都圏の北といってもかなり中心部に近いのですが、都心まで30分のゲートウェイ、さいたま市に集われたこの広域の皆様、地域資源を相互に活用して、地域活性化、交流人口拡大ということをお考えだと思います。ましてや、オリンピック・パラリンピックが、5年と言っていました、もう実質4年後というぐらいいい感じで近づいておりまして、広域観光ルートというのをこの非常に便利なゲートウェイ大宮を活用しながら考えていくことができるのではないかと、その点について、まずご討議をいただきたいと思っております。

まずは、新幹線が開業されてこの半年、大ブームに沸いていると言われる金沢市から山野市長、ぜひご発表いただきたいと思っております。広域の観光ルートをこの大宮経由で……。

○清水座長（さいたま市長） 藻谷さん、先にちょっと私のほうからテーマの説明をします。申し訳ありません。

○藻谷ファシリテーター 失礼しました。そうですね。大変失礼しました。

○清水座長（さいたま市長） それでは、私のほうからまず討議テーマ1-1ということで、広域観光ルートについて説明をさせていただきたいと思っております。

まず、「地域資源の相互活用による相乗的な地域活性化の促進・交流人口の拡大」ということでありまして、テーマ1-1の内容については、オリンピック・パラリンピックを見据えた広域観光ルートあるいはムック本作成によるPR等ということになりますが、ご意見をご提案いただきましたのは、函館市さん、青森市さん、盛岡市さん、郡山市さん、新潟市さん、高岡市さん、氷見市さん、金沢市さん、南砺市さん、長野市さん、そしてさいたま市、以上11市でございます。

では、議論を進めていきたいと思っております。藻谷さん、よろしく申し上げます。

○藻谷ファシリテーター 大変失礼いたしました。

ということでございまして、以上のように11市から提案をいただいているのですが、その中から、時間の関係もあるのですが、やはり今最も新幹線の終着ということで沸いております金沢市の山野市長からご発言をいただきたいと思っております。

○山野金沢市長 3分ですね。

こんにちは、金沢市長の山野と申します。よろしく申し上げます。

先ほど石破大臣から金沢のことをちょっとお触れいただきました。実は、3月に開業してから半年の段階で、アンケートを全部集めまして、課題を整理いたしました。その中で、すぐ対応できること、もしくは、9月上旬でしたので、シルバーウイークまでに対応できることを全部挙げて、その次は今年度中に対応できること。また、関

係機関等と調整が必要なもの。当然、金沢市単独ではなくて、県もしくは民と連携が必要で、対応が必要なもの。そしてもう一つは、ちょっと時間がかかるけれども、ハード的な対応が必要なもの。この大きく4つのテーマに分けて課題を整理し、今、課題に取り組んでいるところであります。そのことをちょっとだけ言いわけさせてもらって、広域ということで少し触れたいと思います。

いつも申し上げるのですけれども、金沢は、皆さん、恐らく歴史・伝統・文化のまちと思っていただいていると思いますし、たくさんの方がそういうものを求めて金沢にお越しいただいています。これは、僕は誤解を恐れずに言いますが、観光という面だけに絞って言えば、金沢は京都には勝てません。北海道の相手にはならない。沖縄と一緒に土俵に上ることはできません。でも、金沢の近郊には、金沢にない魅力・強みを持った自治体が幾つもあります。まさにお隣にいらっしゃる南砺市さんや氷見市さん、高岡市さんなどもそうです。そういう自治体とコラボをすることによって、エリアで売っていく、エリアで発信をしていくことによって、京都や北海道や沖縄と同じ土俵に上ってプレゼンができると思っています。新幹線以降、さらにそれを勢いよくしているところであります。

ちょっと想定外のことがありまして、今からすれば当たり前なんですけど、東北方面からたくさんの方がお越しいただくようになりました。これは、藻谷さんがおっしゃっていただいた大宮乗りかえです。大宮乗りかえでたくさんの方がお越しいただくことになりましたし、ここは県とも連携してしっかりと取り組んでいかなければいけないと思っていますし、と同時に、我々市長の仕事は、観光客を呼ぶことだけではなくて、一番大事なことは、市民の生活満足度を上げていかななくてはなりません。お越しいただいて経済効果を生むということも大事ですけれども、市民の皆さんにいろいろな情報を提供することによって、いろいろなところに行っていくことによって、満足度を高めていくということも必要ですので、そういう意味では、大宮を拠点にして、東北であったりとか、さまざまのところに行っていくことによって、快適な移動ができますよということを提示していくことも、我々首長にとって大事なことだと思っています。

3分になりました。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。本当に大宮乗りかえで、今まで東北から北陸というのは、行きたくてもなかなか行けるところではなかった。逆もありますよね。この相互の交通がこれから非常に盛んになるかと思っています。ありがとうございます。

さて、それをお聞きいただいて、まさに今度は秒読みが半年を切ったわけですが、函館市さんのほうではどのようなお考えをお持ちでしょうか。よろしくお願ひします。

○工藤函館市長 函館市長の工藤でございます。

いよいよ来年の3月26日に北海道新幹線が新函館北斗で開業いたします。東京と4時間、そしてこのさいたま市の大宮とは3時間45分、仙台と2時間半、青森市長が隣にいらっしゃいますが、青森とは1時間で結ばれて、時間が非常に短縮されることとなります。私どもとしては、首都圏・北関東・東北からの観光客が40万人前後増加す

ると見込んでおります。ただ、首都圏からは既に北海道にはかなり来ています。函館にも多くの方がこれまで来ていただいて、首都圏で「函館に来た人は手を挙げてください」といろいろなところで手を挙げていただくと、6割以上も函館に来た人がいらっしゃる。かえって北関東・東北はこれまで、地理的には近いんですが、時間的に交通の便が悪くて、余り往来のない地域、大宮、さいたま市から北、そして盛岡から南、この間には宇都宮や郡山、福島あるいは仙台といった人口集積地がありますけれども、ここの行き来が北海道の場合、非常にお互いに少ないんです。北海道にも来ていただいていない、北海道からもこれらの地域に行っていないということがあります。私どもとしては、首都圏はもちろんであります、こうした地域から函館に来ていただくことを非常に期待しているところであります。

北海道観光振興機構等が首都圏でアンケート調査を行っております。「開業後、函館に行きたい」と答えた方が80.4%、80%以上の方が「新幹線で函館に行きたい」と答えておりますが、「函館だけ」という人は6.1%、6%しかおりません。「あわせて道内をめぐる」という人が47%。「函館と札幌など道内を回る」、これが47%ぐらいいます。そしてまた、「函館とともに東北を回る」という人が45%います。東北あるいは道内他都市との連携というのが非常に大事になっておりまして、東北6県の各都市と新たな広域的な観光ルートをつくるということが、今のこの数字からも非常に重要だと思っております。

もう一つはインバウンドでありまして、東アジア、ASEANで北海道人気が高まっております。国内人口が減少して国内の観光客が少なくなっていく中で、これからは海外観光客の取り込みというのが非常に大事だと思っておりますが、今、北海道のインバウンドは、昨年で137万人、ことしは多分180万人前後になると思っております。函館も、10年前のインバウンドというのは4万5,000人、昨年は宿泊客数で35万人、ことしは、天津便や北京便、これから杭州便も就航しますので、多分45万人前後、うまくいけば50万人ぐらいになるのではないかなと考えております。2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに、北海道の高橋知事は、5年後北海道のインバウンド300万人を目標にしています。函館は、私は100万人を目標にしています。今の勢いでいくと達成不可能ではないと思っております。新幹線でふえる国内観光客が40万人に対して、インバウンドのほうは昨年の35万人から3倍の100万人に5年後ぐらいにはなっていくだろうと思っております。インバウンドの重要性というのを私たちとしては考えております。

その中で、毎年台湾とか中国、あるいはタイとかシンガポール、香港にも行くのですが、最近非常に注目されているのが、北海道新幹線に乗って、北海道はもう回ったので、北海道だけではなくて、新幹線を使って東北あるいは関東、こういうルートを中国や台湾の航空会社も旅行会社も非常に注目して、関心が高い。そういうルートをつくる必要がインバウンドの面でも出ているのだと思っております。日本のゴールドルート、海外観光客の80%は、まず東京、そして京都、大阪、最近は富士山も入りますが、ここに集中しているわけですが、これに加えて、東日本ゴールドルートをぜひ東北新幹線沿線の自治体の皆さんとつくっていきたく思っています。羽田・成田を使って、東京から北へ向かわせる。北海道に来る、新千歳に来る客を札幌から南へ

向かわせる。そして、この東北新幹線と北海道新幹線の各都市に広域観光ルートで回していくということをぜひやりたいなと思っています。今、青森市長とは青函で非常に連携しております、合い言葉は、東京～青函～札幌、東日本ゴールデンルートということでやっていますが、もちろんこのルートには今日ご出席のたくさん都市がありますので、それを拡大しながらやっていければなと思っています。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。

まさに、今までの新幹線の沿線と少し違うところは、距離がある程度あるということで、もろに飛行機との競争があるということですが、既に東京と結ばれて万歳ではなく、その途中の場所との連携を最初から非常に強くお考えであるということが大変画期的であると同時に、インバウンドを強く意識しているということで、金沢と函館というのは共通だと思います。ぜひ、ついでに東京に寄らずに、大宮で乗りかえて、さらに北陸方向に向かう、本当の新ゴールデンルートというのも十分あり得るかと思えます。

さて、そういう中で、もともと日本海側ということでは、唯一の政令市であり、非常にお客さんの入る一流のスポーツチームを持っている唯一のまちでもあると言えば、新潟でございます。最近はやそのまちに少し脚光が当たりぎみですが、今、新潟は大改造工事も始まったところでございます。

篠田市長、新潟からのプレゼンをお願いします。

○篠田新潟市長 オリンピック・パラリンピックを見据えますと、来年リオデジャネイロオリンピックが終わると、直ちに文化プログラムが始まるということなので、我々は文化プログラムをさまざまなルートで、あるいはテーマで提案していこうと思っています。その一つが、私どもは、縄文時代の火焰土器が新潟の象徴であるので、火焰土器を聖火台に使っていただきたいということで、話題性も含めて、今お願いをしております。

もう一つは、近代オリンピックはロンドン大会のときに初めて成熟したと言われますが、このときに、地元組織委員会は開催都市であるロンドンばかりでなく、地方都市にも恩恵を及ぼそうとする「ロンドン+（プラス）」という理念を打ち出しました。イギリスはロンドン+グラスゴーとか、ロンドン+どこかの地方都市、こういう考え方を打ち出したのですが、東京オリンピックのときには、それでは不十分ではないか、むしろ地方都市を中心に据えた「+（プラス）東京」という発想が重要ではないかと私は思っています。例えば金沢+東京。小松空港から入国し、金沢で滞在し、見たい競技があるときだけ東京へ行っていただく。こういうプログラムを我々は提供できるのではないかと。特に新幹線と空港が近い金沢、静岡、新潟、仙台、これは非常にその可能性が高いと考えます。新潟市では、こうした発想のもと、できればプライベートジェットの基地としても新潟空港の活用が図っていただければと思っています。

新潟空港は新潟駅にも至近であり、空港に着いて、新潟のホテルチェックインまで30分で十分に移動できます。そこで新潟の魅力、佐渡の魅力、北陸の魅力、これらを楽しんでいただいて、ではちょっと東京オリンピックの見物に行くかといった形が考えられます。さいたま市を含む首都圏のホテル収容能力の飽和が懸念される中、私は快適なホテル・飲食の環境はむしろ地方都市にあるということをご提案していきたいと



思っているのです。プライベートジェットの提案も組織委員会にさせていただいたのですが、まだ「我々はそこまで考えが回らない。もうちょっと待ってほしい」と言われ待機している状況ですけれども、小型機のプライベートジェットならば、地方空港の活用の可能性は極めて高いのではないかと考えています。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。現に新潟は、ロシアからお金持ちのプライベートジェットが新潟とか富山空港には飛んできている。小松は残念ながら軍事基地と一緒になので、これが入れないという制約があるのですが、おいしい魚を食べに、すしを食べに飛んできていらっしゃるとい話を聞くことがあるわけですが、まさに地方インで、そちらの宿に泊まって、たまにオリンピックを見に行くと。さらにご当地さいたま市では、オリンピックといえば、あれですよ。

○清水座長（さいたま市長） サッカーとバスケットボールがありますので、特にサッカーはアンダー23の世界一を決めるわけですけれども、バスケットは、まさにドリームチームがたくさん来て、多分オリンピック後半の目玉の競技とも言われておりますので、さいたま新都心の目の前のスーパーアリーナでやりますから、そういう意味では、逆に言うと、かなり地方都市とも近い場所でやられますので、そこから連携していろいろな都市に行くということは十分可能ではないかなと思います。

○藻谷ファシリテーター 東京まで行って、さらにスタジアムへ行くのは結構乗りかえが面倒くさいんですが、大宮だと楽ですので、むしろこっちがゲートウェイという、皆さんの競争ができ得るといことでもあります。ありがとうございます。

さて、今、金沢市長は冒頭、周辺の魅力とあわせて観光としてという非常に懐の深いことをおっしゃいましたが、周辺と言うのは失礼なんです、北陸の、知る人はみんな知っているといか、結構有名ですが、魚といえはやはり氷見といことございまして、きょうは、新幹線駅はないけれども、すぐ近くにあるといこと、氷見市長にお越しいただいています。よろしくお願ひします。

○本川氷見市長 ご指名、ありがとうございます。日本海は寒ブリのまちより参りました海の男祐治郎こと、富山県氷見市長の本川祐治郎でございます。

先般、九州に行きましたときに、九州でこの北陸新幹線の観光旅行商品があったのを見まして、佐賀県だったのですが、佐賀発、大阪、立山黒部アルペンルート、その後、思い切り長野に飛んで、東京から静岡に飛んでぐらいの動きをしていらっしゃって、なるほど、海外からいらっしゃったり九州からいらっしゃる方ではこういう動き方をされるんだなと思ひました。

氷見におきましては、このさいたま、特に国際的な盆栽の博覧会を再来年ご予定といことですが、海のないさいたまと、海のある、世界で最も美しい湾に選ばれた氷見と、いかに連携しようかと今考えておりまして、盆栽とちょっと共通するのが、越中式定置網には400年の歴史があるのですが、このたび、道の駅をリノベーションしまして、漁業交流館魚々座という館をオープンしております。皆さんのお手元の資料の2ページ・3ページに出ておりますが、ここに各おうちにある古い民具とか漁具をたくさん集めてきまして、実はこれは、大前研一さんや横浜市長さんからアドバイスをいただいて、「こういう空間のほうが海外の人は燃えるのだ」と言われてつくった空間なんです。今回もグッドデザイン賞の100に選ばれていまして、こういう空間で

夜、集魚灯の明かりのもとで飯を食べるとかという体験ができる施設になっています。きのう富山県では、天皇陛下がご来県いただきまして、全国海づくり大会という大会がありました。その後、世界でも最も美しい湾クラブのトルコ人のグル理事長さんやフランスのブルーノ事務局長さんがいらっしゃって、半日ここをずっとご案内したのですけれども、非常に高い評価をいただきまして、なるほど、海外の方にはきちんと受けるなと思った次第です。ですから、この盆栽のクールジャパンと、こういう漁村文化のクールジャパン、さらに高岡市さん、氷見市、藤子不二雄Fさん、Aさんのふるさとでありまして、今、高岡市さんでは美術館を整備されますし、氷見でもギャラリーを整備しました。また、南砺市さんもアニメーションがありまして、こういうクールジャパンの掛け合わせということで、きちんとした商品がつかれるのではないかなと、今ここに来て盆栽を見てひらめいた次第です。

ぜひまた、寒ブリ、12月から1月は本当においしいです。2時間ちょっとで来られるようになりましたので、さいたま、関東の皆さん、東北の皆さん、どうぞお越しくださいませ。よろしくお願ひします。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。さいたまの方は、海というと、東京だとまだ汚いので、湘南新宿ラインに乗っていくと2時間ぐらいで鎌倉あたりまで行けるわけですが、実は同じ時間で日本海側の本当にきれいなものが見られてしまう。新潟も行けるし、富山も行ける、能登も行ける。ぜひそういう連携を生かさなくてはいいけないです。ありがとうございます。

さて、富山は海だけではなく、日本有数の山のきれいなところなんです、山の世界遺産もあります五箇山などをお持ちの南砺市。田中南砺市長さん、よろしくお願ひいたします。

○田中南砺市長 南砺市長の田中でございます。

私は、実をいいますと、東京2020年のオリパラ首長連合というのがありまして、その副会長をさせていただいております、オリンピックに向けての連携というのは重要ですが、オリンピックが終わった後もさらに盛り上げていこうというのが、地域を活性化するために大事だと思っています。

今、藻谷さんからご紹介いただきましたけれども、合掌づくりの世界遺産のある南砺市でございます。それともう一つは、きょうは青森市長さんがいらっしゃっておりますが、棟方志功が戦後疎開しまして、7年間南砺市に住んでいたというつながりが実はありまして、私は今回の北陸新幹線がつながったことによって、青森市と棟方志功ツアーをぜひやりたいなと、これくらいのことを実は思っています。

それで、私の提案なんですけれども、今回こういったさいたま市さんのお計らいでこのメンバーがお集まりになったということが一つのスタートで、何か残すことが大事だといつも思っております、最近、PRは、ネットとかSNSとか、いろいろなことがあります、最近、私はこういうムック本をいろいろとやっています。何種類もディスカバージャパンさんに今回いろいろとお世話いただいてこういうムック本を出して、この中に相当数、市町村のストーリーのあるところをちゃんと書いてもらうという、これは単なる観光カタログではなくて、ストーリーをちゃんと書いて、それを抜き刷りにして、逆に言うと、こういうものを英文化して、いろいろなところへ、

我々みんなで使えるような、そういうものがあれば、これから本当にインパウンドでこういうものが非常に重要でないかなと思うんです。観光社の旅行パンフレットもいいのですけれども、その中に歴史、文化、自然、食、さまざまなものがちゃんとストーリーとして入ることが大変重要だと思いますので、きょうは、「ぜひムック本をつくりましょうよ、皆さん」と言いたくて参りました。

以上でございます。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。

今おっしゃった、まさに青森と南砺も、実は大宮乗りかえですぐ新高岡経由で結べる。そこを好きな方が、例えば九州の棟方志功ファンが一气に行ってみる。あるいはもちろん海外の方も、あるいは函館の朝市を見た後に氷見のブリを食べに行くといったことも九州や西日本の方は一度やってみてもいいし、海外の方でしたら、なおのことですよね。そのように、実はこの連休を使って、いろいろなおもしろい、移動もあわせて楽しめる旅がつかれるといったご提案でございます。

さらには、ご存じかと思いますが、そうはいいながら、新幹線は大宮では既に満席状態がすごく多いんです。ところが、東京駅の容量の関係でこれ以上増発ができないんです。と言うとあれなんです、大宮には、ご存じかと思いますが、1本、ほとんど使っていないホームが残っています。新幹線ホームが3本ありまして、2線、いざというときの待避線に主に使っていますけれども、実はその余力があるので、大宮始発北行き、西行きですと、増発の余地があるんです。ということもさいたま市の隠れ資産でございます。

市長、いかがでございますか。

○清水座長（さいたま市長） そうですね。今いろいろな皆様からお話をいただきまして感じたのは、一つは、特にインパウンド、外国人の観光客が来た場合には、西側に行くルートはきちんとしているけれども、東側のルートが必ずしもしっかりしていないということで、そういったものをしっかりとつくっていくということであったり、あとは、そのよさを知っていただくために、南砺市長さんからもお話がありましたが、もう少しいろいろストーリーづくりみたいなことも含めて、ムックのようなPR版のようなものをつくっていくということも必要だったりすると思っています。

あと、今、藻谷さんから、隠れ資産でありますもう一つのホームがご披露されましたけれども、私たちとしても、せっかくですので、大宮始発というのをぜひ復活させたい。今年は北陸新幹線が開通して、北陸の皆さんと非常に近くなったという印象を持っておりますし、また北海道新幹線が来年開通することによって、さらにこの新幹線を使っての移動ということが飛行機で移動する以上にしやすいということになってくるのだらうと思います。また、途中の沿線の皆さんともネットワークができてくるということも含めて、すごく重要な路線だと思っていますので、私たちもぜひ皆さんと共同して大宮始発をJRさん等にも働きかけて、これをやることで、さらに本数もふやすことができるでしょうし、地方空港と新幹線のネットワークがより一層強化できるのではないかと思います。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。

以上、皆様にお話しいただきました。私の仕切りがちょっと悪くてというか、自分

が余計にしゃべり過ぎて、各市長さんが非常にコンパクトにお話しいただいているにもかかわらず、既に時間が押ししておりまして、申し訳ございません。

以上、お話しいただいたことを勝手ながら取りまとめさせていただきますと、旧来ゴールデンルートとは違う、東日本ゴールデンルート、函館発、恐らく金沢ぐらいまでの東日本ゴールデンルート、広域観光ルートを積極的に活用する。そのときに、広域観光ルートというのは、例えばプライベートジェットでもアクセスできると。例えば、プライベートジェットで新潟に飛んできて、このように日本を楽しんで、そして帰りましたという欄があると、実際にプライベートジェットを飛ばさない人でも読んで楽しいですね。そのようなものを盛り込んだストーリー性のあるムック本をぜひ共同して自治会が出すのを企画してはいかがでしょうか。

そしてさらに、新幹線の増発余地が本当にないので大変なんですけど、大宮終点ということであれば増発の余地がありますので、既存便を大宮終点で打ち切るという話ではもちろんありませんで、さらなる大宮を活用した、大宮始発・終発をつくることによる増発と、このあたりをぜひこの連携会議の提言として打ち出していったらどうかと思います。

皆様、こういうことで、座長、いかがでございますでしょうか。

○清水座長（さいたま市長） そうですね。今、藻谷先生からご提案というか、まとめていただきましたけれども、皆さん、いかがでしょうか。

（拍手）

○清水座長（さいたま市長） ありがとうございます。そうしたら、まず討議1のテーマについては、そのような形でまとめをさせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

それでは、次の討議テーマ1-2、地域資源活用プログラムについてということでございます。これは、地域資源活用プログラム（伝統産業を利用した学習プログラム等）についてでございますが、この件についてご提案をいただきましたのは、盛岡市さん、秋田市さんを初め、9つの都市の皆さんでございます。

それでは、藻谷先生のほうから議論を進めていただければと思います。よろしくお願いたします。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。今、広域資源を使ったコースづくり、そのための新幹線を活用したルートづくりといった話をしたのですが、今度はよりコンテンツといいますか、新幹線で結ばれるコンテンツにさらに着目して、棟方志功とか既に出てきたのですけれども、よりこの新幹線で結ばれた地域の地域資源にはどのようなものがあるか、それらを連携して生かす道があるのかということについてご討議をいただきます。

それでは、金沢と並んで、外国人の方が来たらぜひ連れて行っていただきたい美しい日本の地方都市、えこひいきなんですけれども、私が個人的にその代表だと思っている盛岡市の谷藤市長、よろしくお願いたします。

○谷藤盛岡市長 盛岡市長の谷藤でございます。

盛岡のほうは、400年の歴史ある城下町ということでもありますけれども、その中で培われてきた盛岡の芸妓文化というか、これらを何とか継承させていきたいということで、今、取組をしているのですが、実は明治時代は100人ぐらいた芸妓さんがもうついに5人ぐらいまでいなくなりまして、市民の皆さんから、何とかこれを守り継承していかなければという声もだんだん上がって、後援会が立ち上がっているわけです。実は5人になったときに、その方々が「ときの会」ということで、絶滅危惧種だということで、もういよいよ我々が最後になるといったことの危機感を持っていましたが、何とか新しい子が2人入って、今ひよっこまで入れて9人の体制にはなったのでありますが、これらをこれからも何とか育てていきながら伝統文化を守って、特に先輩格であります金沢市さんとか新潟市さんとか酒田市さんとか、いろいろなところでそういう文化を大切にされている地域があるわけですが、その辺との交流等もさせていただきながら、特にインバウンド関係で来た方々を含めて、そういうおもてなしを含めて、ぜひ取組を進めていきたいと思えます。

それと、盛岡にはもともと町家という古い町家があったのですが、どうしても寒い関係で、せっかくいい建物を現代風に囲ってしまっていた地域があって、これを昔風に全部表に出していこうという運動が今盛んになっていまして、そういうことで新しく昔の風情のある街並みを取り戻そうという形になって、今、活動をしています。そういうことで、ぜひこの新幹線の交流の中で、さまざま、そういう伝統文化を継承しながらおもてなしのものを出していければいいなと思っています。

特に、今度は函館までの新幹線関係もありますけれども、盛岡と函館は、特に石川啄木つながりというのが非常にありまして、ここを今後とも大切につないでいながら、実は北海道のほうから盛岡には学習旅行というか修学旅行の方々にたくさん来ていただいているのですけれども、今度は我々のほうからたくさん行けるような環境になっていくのかなと思っていますので、交流を活発にさせていただきたいなと思っています。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。

金沢と盛岡は、大きさはちょっと違うんですが、きれいな川が市内を流れているというそっくりなまちでございますが、芸妓さんの交流というのは今までなかったんですね。

○谷藤盛岡市長 そうですね。特にないんですけれども、盛岡の5人の芸妓さんを実は金沢市のほうに商工会議所が中心になってお邪魔して学ばせていただく機会を、商工会議所の皆さんを通じて、一度お座敷のほうも含めて回らせていただいて、こういう形で今もきちんとならないうでいるのだというところを学ばせていただく機会をつくってきました。今後さらに交流を深めさせていただければありがたいなと思っています。

○藻谷ファシリテーター なるほど。すばらしいですね。ありがとうございます。両方行って見比べてみるという経験ができると、おもしろいかもしれません。

さて、同じく日本で、特に食べ物がおいしくて、花や自然が美しいまちは一体どこかといった場合に、皆さんはどう思われるでしょうか。新幹線沿線というのは雑駁なところが多いんですが、とにかく圧倒的にきれいなものがあるのは、僕は福

島だと思えます。花見山あたりは少し有名になってまいりましたが、福島地域資源の生かし方について、ぜひお話しください。

○小林福島市長 福島市長の小林香でございます。福島市の地域資源についてご紹介したいと思います。

まず、今お話に出ました花見山でございますけれども、これは、今は亡き秋山庄太郎先生によって「福島に桃源郷あり」と絶賛されたところでございます。もともとは花卉農家が昭和34年ごろから個人の所有地を代々無料で開放してきたところがございます。そして、その後平成14年頃から、行政と観光関係団体、市民が連携して、二次交通の整備や案内ボランティアなど、観光客の受入体制を整備してきたところがございます。その成果もありまして、大震災前には30万人近くまでなったわけですが、現在でもわずか1カ月の間に25万人を超える観光客が訪れてくれておりまして、本当にありがたいと思っております。そして、こうした花が美しいところは、福島県内にも郡山市内にもございますし、あるいは遠くを見ますと、青森県、山形県、宮城県、岩手県、それぞれのところがございますので、例えば観光ツアー商品として東北花街道のようなものを企画できればいいのかなとも思ったところがございます。

それから、福島市内は果物の産地でございます。くだもの宝箱とも呼ばれております。サクランボに始まりまして、モモ、ナシ、ブドウ、リンゴなど、1年を通じておいしい果物を楽しんでいただけたところがございます。それがためにかえって加工面には余力を入れてこなかった感があるわけなんです。何とか東日本大震災、特に原発事故による風評被害を払拭したいという思いを込めまして、昨年からはスイーツコンテストというものを始めております。昨年はリンゴ、そして今年はモモ、来年はナシをテーマに開催する予定でございます。審査員の先生方には、例えば帝国ホテルの総料理長、あるいは日本人で初めてミシュランの一つ星をとられた中村勝宏さんとか、そういった日本を代表するシェフの方々になっていただいております。今年は全国から218人の応募があったところがございます。大変ありがたいところがございます。

それから、福島市を含む福島県の県北地方は、江戸時代から明治時代にかけて、養蚕業による生糸の集積地として発展したところがございます。そしてまた、それによりまして、東北で初めて日銀の支店が置かれたところでもございます。そして、そのように発展したことのあらわれとして、当時の芝居小屋なども現在残っているところがございます。そして、商人宿あるいは料亭、民家などを移築・復元しました民家園という施設がございます。私は、これは福島の資源というよりは宝であると思っております。これをもっともっと有効活用できないかなと思っております。そして、民家園におきまして、先ほど申し上げました養蚕業にかかわる機（はた）織り、当時の機織機を用いまして、当時の養蚕の技術、機織りの技術を復元・伝承する取組を行っている団体がございます。そして、この機織りは、昔の機を用いるわけですが、かなり高度な絹織物が織れるということで、本当に私も感激しているところがございます。こうした昔の機などの取組を行っているところが全国にもございますので、そうしたところとの連携も考えていきたいなと思っております。

それから、福島にも吾妻五葉松という盆栽の伝統がございますので、さいたま市さんともしっかりと連携させてもらえればありがたいと思っております。

以上でございます。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。花、果物、養蚕から始まる機もの、織物、実はたまたま東京では余りないものばかりで、花はあると言えばあるのですが、東北・上越・北陸新幹線沿線が特に日本有数にきれいかつ集積しているものばかりで、養蚕といえましょうという方も多々いらっしゃると思いますが、確かにそういうものをめぐってきちんと見て歩くというのは、特にインバウンドの方とか、そういう専門の方には大きなニーズがあるかもしれませんね。花に関しては、本当に大きなニーズがあるのですが、余り商品化されていないと思います。1カ月ぐらい順番にめぐって見たいというニーズはありますよね。ありがとうございます。

さて、福島といえば、それは福島市が県庁所在地ですが、南東北の経済の中心は郡山だということでございまして、全く余談ですが、私は金曜日に郡山市内で白鳥をことし初めて見ました。実はあの美しい猪苗代湖も半分は郡山市でございまして。

では、郡山市長から同じく地域の資源をご発表いただきたいと思っております。

○品川郡山市長 ありがとうございます。白鳥の湖を見ていただいて、ありがとうございます。ございました。

福島県は、東京・千葉・神奈川・埼玉を合わせたよりもちょっと広い。その真ん中にあるのが郡山でございまして、大体どこに行くにも郡山を通られる。したがって、今、郡山は福島県内ではハブの役割を持っているなど。大体、いろいろな方が来ましても、郡山で泊まって県内にいろいろ行かれると、ベースキャンプのまちにもなっております。それから、盛岡市さんには芸者さんがおられて、うちにもおりまして、仙台は5人らしいんですが、うちは10人おりまして、金沢市さん、ひとつ芸者さんを通じたまちおこしのおつき合いを相談させていただきたいと、今日は商工会議所からも来ていますので、後ほど連携に向けた情報交換をお願いしたいと思っております。

それで、私のまちは極めて、藻谷さんが言われたように、プラグマチックなまちでございまして、人口は仙台に次ぐ第2の都市でございまして。仙台の公共投資の10分の1ぐらいですが、人口は3分の1ぐらいですから、非常に効率のいいまちだと思っております。

また、郡山の一番の資源は病院でございまして。ですから、オリンピックで事前練習などに来られて万一けがをしても、バックアップはできるということです。

それから、新幹線の駅から電車で15分の駅に温泉街があります。立派な温泉、磐梯熱海温泉というのがあります。それから福島空港から市街地まで車で34分なんです。今日お集まりの17都市の中で5番目に空港から近いまちでございまして。ただ、この空港が今、中国・韓国の定期便が途絶えているものですから、何とか復活できないかと。あとは、もっとチャーター便とか貨物便とかになりますと、より交通のハブ機能を果たすことができるのではないかなと期待しております。

それから、ウイーン少年合唱団はないんですけれども、大宮で金賞・銀賞をいただきまして、ありがとうございます。本市の児童・生徒は群を抜いて全国水準の音楽、合奏・合唱も力を持っておりまして、この子供たちの音楽をおいでになった方に大い

に聞いてもらうということもあるのかなと思っております。こんなところが、地味でございますが、着実にお役に立てるまちかなと思っております。

あと、皆様からいろいろ秘策を伺ったので、これからひそかに真似させていただこうかと思っています。ありがとうございます。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。やはり、歴史は古いんですが、近代で大発展したまちですから、文化が非常に盛んなので、うちの子供はGREENの歌ばかり聞いていましたけれども、あれは郡山の歯医者さんの集まりですが。

○品川郡山市長 駅の発車の音楽はGREENでございます。

○藻谷ファシリテーター 知らない方は知らないかもしれませんが、非常に有名なグループですが、医療ツーリズムというのがありますけれども、医療、そして今の合唱とか、そういう音楽というものは非常に大きな世界的なパワーがありますね。そのようなものも沿線にあるということで、多分「それだったらうちもあるぞ」という方もいらっしゃると思いますが、特に行きやすい、しかも大宮から実は1時間かからないという非常に近いところでございます。さて……。

○品川郡山市長 ちょっと今オーバーしてすみませんが、平成の司馬遼太郎さんの前でなんですけれども、司馬遼さんの本を探していましたら、「東京への交通機関的な距離で自己の価値を決めねばならないような土地ではない」と、これが東北の定義でございますが、そうはいっても時間距離は大事でございますして、大宮から東京の何とこの遠さですね。ですから、先ほどの大宮から北に増発というのは大賛成でございますして、清水さん、頑張ってください。よろしく願いいたします。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。私も大宮でおりに家に帰りますので、大賛成です。

さて、地域資源といえば、私がアメリカにお土産を持っていったときに何を持っていったかという、実は皆様のまちのものではなくて、このまちのものを持っていきまして、ものすごい好評を得ました。日本の誇る伝統工芸・文化を持ち、近代工業を持っているまちといえば、実は富山県高岡であります。

高岡市長、よろしく願いいたします。

○高橋高岡市長 ありがとうございます。高岡市でございます。

伝統工芸のお話をいただきましたが、高岡は、今日は富山から私も含め3市来ておりまして、同じ新幹線の駅を使う仲間同士であります。東京から行きますと、金沢の一つ手前の駅になるのですけれども、実は新幹線が開業してから、結構大阪の方々が、関西からもたくさん入り込むようになっていただきまして、関西から来ると、実は金沢の一つ先でありますので、私は「ディープ北陸」と、要するに本当の北陸を味わえるところは富山ではなかろうかといったことを言いながら、ぜひとも皆さんにおいでいただきたいと思っています。

今ほどこの伝統工芸のことで藻谷さんからお話がありましたけれども、先ほど新潟の市長さんがオリンピックの聖火台を火焰土器でとおっしゃったんですけれども、たまたま私もそういうお話を、私どもも、実は札幌オリンピックの聖火台は高岡の鋳物技術でできておりまして、東京オリンピックは残念ながらそうではないんですけれども、ぜひこれをつくらせていただきたいということもアプローチいたしております。



ぜひ、長岡市さん、新潟市さんと手を組んで、火焰土器を高岡鋳物でという聖火台をアプローチしていきたいなと思っております。

高岡は、実は大伴家持がしばらくいたことがありまして、万葉集のふるさとづくりというのをやっておりますが、ちょうど再来年が大伴家持生誕1300年祭であります。いろいろな行事をしようと思っておりますが、実は東日本、東北、奥州が大伴家持終焉の地と言われておりまして、ぜひこういうゆかりの地を集めて、高岡でそういうサミットというんでしょうか、交流を深めたいなと思っております。

また、奥の細道、松尾芭蕉は、歌枕をたずねて奥の細道を歩いたとも言われておりまして、奥州からずっと北陸路を通っていらっしゃるんですね。高岡も一つ歌で詠んでいただいておりますけれども、「有磯海（ありそうみ）」という歌枕がございました。これを聖火リレーで使おうではないかという運動もやっておりますし、この奥州と越路、北陸路をつなぐ行き来が成り立っていけばいいなと思っております。ぜひ、この新幹線を機会として、東北と北陸がつながれる、そして大宮始発で北陸方面へも東北方面へも便数がふえるということを目指していただきたいと思っておりますし、またあわせて、東京オリンピックなどでいろいろなグッズが必要になってくると思うのです。富山県でも伝統工芸のグッズもたくさんございますし、そういったものを、皆さんそれぞれの地域のもので東京オリンピックなりを機会に、多くのインバウンドが来ていただけますので、ぜひともこの地域の資源として売り込んでいきたいなと思っております。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。銅鋳物、あるいは高岡だと錫の工芸とかですごくおもしろいものがあるのですが、それだけでなく、考えて見ると、万葉集、大伴家持つながり、そして奥の細道つながりですね。途中ちょっと新幹線からずれていますが、平泉も、実は高岡も全部新幹線沿線である、ちょっと飛びますが、新潟も実は沿線になっているということで、そういうものの連携を掘り起こすということは大いに可能ですよね。

さて、皆さんそれぞれの市にあるのですけれども、東日本で文化といえ、皆さんはどちらを思い浮かべになるか。非常に深くいろいろな文化が、京風文化が沈潜して、食べ物から何から大変深い変遷を遂げているまちは、実は秋田であります。秋田の地域資源は、食べ物は有名ですが、食べ物だけではございません。ぜひご紹介いただきたいと思っております。

○高橋秋田市商工部長 秋田市の商工部長をしております高橋でございます。発言の機会を与えていただきまして、ありがとうございます。

今、藻谷さんから、秋田の自慢というか、そういうお話でしたけれども、実は北陸新幹線ができるまでは、秋田と北陸は、例えば出張だと、飛行機の羽田乗り継ぎというのが定番でした。これが今は大宮乗りかえの新幹線ということで、劇的に人流が、手段が変わったということでございまして、新幹線の開通がもたらす効果は絶大なものがあるんだなということを感じております。

これがこの後、北海道新幹線沿線等々に続いていくことは、まさにいろいろな意味でいろいろな可能性をもたらすのかなと。私どもが今日提案させていただきたいなと思ったのは、今一番力を入れようとしているのが、既に札幌で何年間か、修学旅行で

ぜひ秋田に来てほしいという取組をしております。その中で、秋田の食であったり、それから歴史・文化といったものを実際に目で見て、手で触れて、自分でつくってみてというキャッチフレーズでやっているわけですし、今はもう数校ぐらい札幌市内の学生が秋田を訪れております。何を言いたいかと申しますと、東日本連携ということで、今後さいたま市や各地域で、そういった若い人たちをターゲットにしたリピーター確保という意味で、修学旅行のプレゼンテーションを、首都圏近郊の千葉でも、さまざまなエリアでそういう可能性があるわけですから、そういう方々を呼んでいただいて、この沿線の都市のプレゼンテーションをさせていただいて、どんどん新幹線を活用して、若いうちから日本のディスカバーというか、そういう発見をしていただきたいなということをご提案させていただきたいと思っております。

以上でございます。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。なるほど、教育旅行ですね。これは、子供は減っていますけれども、昔と違ってチャンチャン行くのではなくて、きちんと地域に入って深く学ぶという教育旅行がどんどんふえていて、実は市場はそういう意味では拡大しておりますが、全国が同じような競争になっているわけですが、それをきちんと伝えるような場を持つべきだと。そのときに、都心でばかりやっていると、意外に、東京の人がみんな集まるかということ、そうではないんであります。むしろ新幹線で乗ればすぐ来られるエリアの、大宮から来られるエリアの学校の人たちにここでちゃんとアピールしたほうが効果的なのではないかと。確かに、横浜のあたりでアピールするよりも、そうですね。東京首都圏3,500万人のうち2,000万人ぐらいは大宮駅のほうがアクセスが近い状態ですので、その人たちにここでアピールをするということをやってみようかと。教育に限らないですが、特に教育は強化が高いような気がします。先生も集まりやすいでしょうし。

そのようなご提案ですが、市長、これはいかがですか。

○清水座長（さいたま市長） そういう意味では、先ほど来お話が出ていますように、東京の西側の皆さんはかなり大宮駅で乗りかえて、そして埼京線等々を使って、あるいは湘南新宿ラインを使って行かれるということを私たちもかなりいろいろな方面から聞いておりますので、そういう意味では、これから、先ほどの東日本ゴールドルートをつくっていく上でも、こういった機会を皆さんに持っていただくということも大変重要ではないかなと思っておりますし、ある意味では情報発信をしていく上でも、大宮駅の利便性を活用してお伝えしていくというのは重要なことだと思っておりますので、大変参考にさせていただきたいとも思っております。

○藻谷ファシリテーター 余談ながら、全国的に少子化ではあるのですが、この埼玉県にはまだ子供が非常にたくさんいるということもございます。また今のお話で、いろいろな連携可能資源、うちの地域にはあるのだけれども、よそにもまた同じジャンルで違ったものがあって、回るとおもしろいねという連携可能資源がたくさんある。今ご発言をちょっといただいている市長さんのところにもそれぞれに本当の花の名勝、日本一花がきれいなのは青森県ではないかという話もありますし、いろいろな名勝がありますが、これをこのさいたま市をハブにすると、実はつながる。このようなことに対して、地域資源を連携するような何か統一感のある演出というのはできない

かと。

○清水座長（さいたま市長）　さいたま市も今、実を言うと、日本一の桜回廊づくりをやっています、今、弘前市さんの桜並木が日本一ということで言われていますけれども、弘前市さんが20キロと言われてはいますが、今さいたま市は既に19.4キロぐらいまでいっています、もうちょっとで超えられそうなんです。ただ、桜というのは、実をいうと、開花時期がずれているものですから、都内・首都圏で開花しても、その後だんだんゴールデンウイークぐらいに向けてずれていくという非常にありがたい特性がありますので、例えば桜とか、あるいは共通する花であったり、いろいろな連携が可能なのかなとは私たちも感じているところなんですけれども。

○藻谷ファシリテーター　そうやってつないで連携していく場合は、新幹線でつながっているという話を先ほどからずっとしているのですが、考えて見ると、鉄道会社さんとの連携というのは、各自治体は、それぞれ地域の支社等はあるでしょうけれども、なかなか全体としてのつながりが難しい。ところが、大宮というのは日本に冠たる鉄道のまちなんですけれども、さいたま市というのは鉄道会社さんとの連携というのは深いんですか。

○清水座長（さいたま市長）　おかげさまで、最近は特に連携を強化させていただいて、今日も来てくださっているのではないかと思いますけれども、鉄道のまちとして発展してきたものですから、そういう意味では、鉄道博物館を含めて、鉄道のこれだけ発展している結節機能、それから駅の機能も含めまして、いろいろな形でハード面でも強化していただきながら、東の北海道、東北、そして上越、信越、それから北陸と、いろいろな地域といろいろな意味で情報交換やより連携が強化できるような取組をぜひJRさんを含めて事業者の皆さんともやっていければなと考えています。

○藻谷ファシリテーター　今ご発言をちょっといただかなかった各市長さん全部、ほかの皆さん、地域資源となりますと豊富でございまして、幾らでもお話ができると思うんですが、また私の仕切りの問題で、だんだん押しまいましたので、この辺でちょっとこのテーマを取りまとめさせていただきたいと思うんです。

以上、一例としてご発言いただきましたいろいろな連携可能な資源を使ったプログラムをつくって、つないで見ていただく。さっきのムックにも使えるでしょうけれども、ホームページにも、さらにそれを使って旅行を誘致する。そういう旅行のアピールポイントのようなものをさいたま市でもやっていく。それから、そこに当然鉄道会社さんを巻き込んで、これはぜひさいたま市さんにも汗をかいていただいて、鉄道会社と連携しながら、東日本ならではの、それを生かしたプログラムづくりをする。このあたりのご提案かと思えます。いかがでございましょうか。

○清水座長（さいたま市長）　ありがとうございます。今、藻谷さんからまとめがございましたけれども、今のご意見について何かご異議等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

（異議なし）

○清水座長（さいたま市長）　そうしたら、では今のテーマについては、そのようにまとめさせていただきまして、私たちとしても積極的に今話が出た件については取り組んでいきたいと思えます。ありがとうございます。

○藻谷ファシリテーター どうもありがとうございます。（拍手）

○清水座長（さいたま市長） それでは、次の討議テーマ2-1についてでございますが、「経済活動促進のための広域的取組の実施」ということで、特に広域活動拠点の整備とか、アンテナ機能、マーケティング調査等についてご意見を青森市さんを初め5つの市からいただいております。これらについて、また藻谷さんのほうから討議を進めていただければと思います。

○藻谷ファシリテーター 引き続きでお疲れさまでございますが、今までオリンピック・パラリンピックも踏まえて集客交流ということでお話をしてまいったのですが、ちょっと重なりますけれども、似て非なるものとして、そもそも基本的な経済活動にこの連携を生かしたいということで、では、この地域の経済都市ということで非常に長年いろいろなことをされている新潟市から、まずご発表いただきたいと思います。

○篠田新潟市長 新潟市は、国家戦略特区に農業分野で指定をいただいている。その中で大規模農業の改革拠点という位置づけですけれども、規制緩和を使った企業の参入については、ローソnfarm、セブンfarm新潟市といった売り切る力がある企業グループと組むことができている。これは、今地域で支持されるものを発掘し売っていきこうと大型店の志向が大きく変わっているときに、そのトップと直接いろいろ意見交換ができているということであり、非常にありがたいことと思っています。また、国家戦略特区の役割の中の一つに、農産物輸出基地になるようにというミッションもいただいています。これについては、各地域が個別に売り込みに行くと、買い手に足元を見られてしまうということも考えられることから、できれば北海道を含め本州日本海側の秋田、富山、金沢あたりが連携して、米の輸出は新潟を經由しましょう、ジャガイモなどは北海道にしましょう、あるいはこういう品目は富山か石川にしましょうといったように、産物ごとにすみ分ける。あるいは新潟は隣接地域のすばらしい産物をコーディネートしてお集めするといったことが考えられます。

地場の動きを少しご紹介しますと、現在、新潟クボタをはじめとするクボタグループが、香港、シンガポール、モンゴルに精米工場をつくっている。精米工場があると、新鮮なおいしいすりたての白米をお出しできると同時に米の劣化にも配慮できるため、企業としてもリスクを軽減できるようです。こうしたこともあり、新潟は今、輸出米が倍々ゲームの形ですごく伸びているという状況で、大体今年は3,000トンが見込まれ、来年は5,000トンクラスまで、もう数字が見えてきています。そうすると、現在、新潟県の非主食用米の柱の一つである飼料用米で四千数百トンぐらいの生産実績ですから、これに匹敵する柱として輸出用米の生産拠点が新潟を中心に生まれるということになります。さらには、中国の日本からの農産物輸入の規制が撤廃されれば、これが一気に1万トン、3万トン、5万トンといった水準も射程に入りますから、新潟市の農産物輸出基地としての拠点性はさらに高まるのではないかと期待しています。

加えて、ロシアの極東ですけれども、ここは人口が少ないというマイナス点があるのですが、日本企業の日揮さんが今ハバロフスクの郊外で植物工場をつくっており、来年はキュウリ・トマトなどをハバロフスクのスーパーに販売する。販売には販売網、

いわゆるサプライチェーンが必要になりますが、日揮さんがハバロフスクに責任を持ってつくると言っていますので、来年はハバロフスクのスーパーに産物を販売するためのネットワークが日本企業の手によってできます。そして、恐らくはウラジオストクにもできます。それを活用するには、本州日本海側からウラジオストクへ産物を持っていけばいいということになりますが、何をどう持っていくか、それぞれが役割を考えることで可能性が出てくるのです。このあたりの展開にあたっては「俺が、俺が」ということだけではなくて、特定の産物はこの拠点にといったような役割分担が重要になってくるのだと思っています。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。従来、産品売り込みというのは、各地がそれぞれ「うちの産品が」と言って売りに行き、それぞれインセンティブを出して、ただ食いされて、それで向こうはそれを食いつないでいるというところがありますが、今の新潟市さんのご提案は、新潟はもちろん、政令市で最も農業生産の大きいまちでございまして、大農業地ですが、そうではなく、農産物の輸出販売拠点としての産業を伸ばしたいと。ですから、よそ様の産品をプロモートして、どんどん売り込む拠点として発展させたい。そして、その市場が特に大陸ロシア、中国であれば、実は西のほうに持っていったり、東京から運び出すより、磐越道、北陸道で皆さんと直結している新潟が有利ですよ。そういうご提案でございませうか。まさにウイン・ウインのお話でございませう。ちなみに、さすが輸出米とか今の野菜の輸出とかでも、新潟は早くに手をつけていらっしゃる業者がいらっしゃるということなんですね。

わかりました。ということなんではございませうが、さいたま市でもこの分野についてちょっと連携をいろいろとお考えであるということなんではすけれども、市長、いかがでございませうか。

○清水座長（さいたま市長） さいたま市のほうでは、特に外国の輸出の部分については、今、新潟市さんからご提案いただきましたけれども、いわゆる首都圏の入り口という視点では、先ほど来、この大宮駅を含めて、非常にたくさんの皆さんが使っている。人の交流もあつたりする。それから、埼玉県全体でも730万人近い人口を抱えていますし、さいたま市内だけでも約127万人おりますから、市場として、あるいは首都圏のマーケットの入り口としても、私たちもいろいろな形で東日本のそれぞれの地域の皆さんと首都圏マーケットあるいは埼玉県内のマーケットをつなぐような役割を果たせればと思っております。そういう意味では、大宮駅周辺にそういった情報発信拠点あるいはアンテナショップ的な機能を持ったものとか、あるいはマーケティング的なことができるような、そんな機能を設置して、皆さんに活用していただくといったことも必要かなと考えているところであります。

○藻谷ファシリテーター まさに大陸に向いての玄関口が例えば新潟であり、それぞれの県内にも業者ありますけれども、そして首都圏向けの南側のゲートウェイとしてさいたまがありますよ。こちらでいろいろな見本市機能とか、そういうもののプロモーション機能をお持ちいただくと、東京までの往復1時間が助かるばかりか、実は首都圏からも結構集まりやすい。そのようなものをこの沿線で持てるということですね。

○篠田新潟市長 その意味では、すみません、香港貿易発展局の方が農業戦略特区に

なった新潟において、「我々は、九州だと、香港に持っていく農産物なんですけれども、九州経産局がみんなまとめてくれている。新潟エリアはどうですか」と言われると、「当然、関東経産局です」ということで、千葉・茨城のものまで日本海側からというのは難しいかもしれませんが、それ以外のものは大半、香港などに向けて出すのだったら、新潟と、そして取りまとめは関東で、埼玉でということが可能だと思います。

○藻谷ファシリテーター なるほど。ありがとうございます。ということで、この分野は、各市それぞれいろいろなお話はあると思うんですが、またまた例によって私の仕切りで押ししておりますが、まことに申しわけありません。最後にまとめて、またご発言を皆さんにご自由にいただきたいと思うんですけれども、こういう連携しながら、それぞれの地域にちゃんと産品が売れるようなプロモーションをしていくためにも、連携相談窓口みたいなものをぜひさいたまあたりで駅周辺で持っていただいて、そして実際にそれを使って効果的な首都圏窓口みたいなものができる。あるいは今新潟でこういうことができますよということも、例えばさいたま市で情報をとって、お互いに連絡窓口ができて、情報が回るようにする。そのような仕組みづくりを早急にやられてはいかがかということだと思っておりますが、市長、これはいかがでございましょうか。

○清水座長（さいたま市長） 非常におもしろい提案だろうと思っておりますし、さいたま市は、首都圏、それから太平洋側と日本海側をつなぐ役割も持っているとも思っておりますので、そういう意味では、今新潟市さんからご提案いただいた内容、あるいはさいたま市からご提案させていただいたものなども含めて、両方でちょっと具体的に取組なども検討していければなと思っております。ありがとうございます。

今ご提案いただいたことについては、皆さん、いかがでしょうか。

（拍手）

○清水座長（さいたま市長） ありがとうございます。それでは、討議テーマ2-1については、今お話しさせていただきました東日本の情報発信拠点等についてちょっと大宮駅周辺でいろいろ検討していきたいということと、あと日本海側、大陸への輸出等については、今、新潟市さんの機能を活用させていただいて、輸出等についても取組を具体的に検討していくということにさせていただきたいと思っております。ありがとうございました。

それでは、討議テーマ2-2に移らせていただきたいと思っております。2-2については、広域商談会、販路開拓、産業支援機関の相互利用等の産業広域展開ということについて議論していただければと思います。ご提案をいただいたのは、函館市さん、青森市さん等5つの市ですけれども、藻谷さんのほうからまた議論を進めていただければと思います。よろしく申し上げます。

○藻谷ファシリテーター それでは、この討議テーマ2-2が最後になるわけなんですけれども、いろいろとご提案いただいた中で、青森市さんから、どのようなことをお考えかということで、ご提案をちょっといただきます。

○鹿内青森市長 青森市長の鹿内でございます。私どものほうで、12月中に、できれば首都圏のにぎやかなところに、仮称ですが、「あおもり屋」というものを開店しようと、今物件を探しております。できれば40坪ぐらいで、アンテナショップ的なテストショップあるいはレストラン併設、そして青森のほうとの商談、テレワーク機能を設けた、そういう商談機能を設け、もちろん観光の情報発信、あるいは移住、新規就農の相談あるいは情報発信、そういうものを含めて仮称で「あおもり屋」ということで、今準備をしております。これは、私ども青森市だけでやろうとしているわけではなくて、いわば東青地域という、青森市から東津軽郡、平内町、蓬田村、外ヶ浜町、今別町。今別は、函館と一緒に来年3月26日に新幹線が開業いたしますので、それぞれの地域が持っている、外ヶ浜町は龍飛マグロ、大間のマグロも有名ですが、大間のマグロも龍飛のマグロも函館の戸井マグロも全部津軽海峡でとれるわけで、上がった場所によってたまたま違うわけですが、龍飛マグロも外ヶ浜町で、それらも含めて産地直送といいますか、できれば東京のど真ん中の一番にぎやかなところ。ただ問題は家賃が高いので、今その辺の折り合いをつけている最中です。その中で私どもは、先ほど来のお話の中で、地域資源、観光資源、ねぶたや棟方志功、あるいはまた八甲田の樹氷等もありますので、それらで東北6県庁所在都市の東北六魂祭、そして先ほど函館市長さんが言われましたように、函館、私の青森、八戸、弘前の4市で青函圏観光都市会議をつくって、来年4月8日から青函圏周遊博覧会をやろうというぐあいにしております。また、県内10市で「10市（とし）大祭典」というのをやっておりますが、それを東京でもやることにしておりますので、そういう面では、そういう機能を最大限活用していきたいと思っております。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。まさに広域都市圏で連携してアンテナショップを出す。青森というと、非常に広い県でございますので、南部と津軽の物産はそれぞれ違う上に、弘前、八戸とは違う青森周辺の物産がそもそもある。海産物から何から、最もクオリティーの高いものをお持ちですので、それを首都圏で展開したい。そのような話があるときに、さいたま市の役割というのはあるだろうかといったことも含めてご提案でございます。

さて、これは物産ということでは必ずしもないかもしれませんが、新幹線につながれてもう随分たちますが、長野市さん、この広域の取組としてどのようなことをお考えでしょうか。

○久保田長野市商工観光部長 長野市でございますけれども、この3月、北陸新幹線が開通いたしまして、長野市、上田市等の沿線以外の松本平あるいは南信地方の事業所が長野市へ支店を構えるとか、そういった動きが出てきた。その主な理由なんですけれども、特にこの4月、5月に善光寺のご開帳がございました。今までですと、長野市に来ていただく方々というのは、JR東日本あるいはJR東海利用の方が圧倒的に多かったわけですが、JR西日本を利用していただいて長野市に入ってくる方が非常にふえて、観光客だけではなくて、ビジネスチャンスもそれだけ広がっていることが考えられます。そういった中で、北陸新幹線の開通に合わせまして、数年前から金沢市さんを中心に北陸新幹線の停車都市連絡協議会というものを構えまして、高崎から金沢まで沿線11の市が加盟していただいております。当初は観光の連携が一番大き

な目的だったのですけれども、この協議会を重ねる中で、沿線都市の皆さんからは、観光だけではなく、産業のそういった連携もとって、スケールメリットの優位性あるいはビジネスチャンスの拡大といったものも図っていかうではないかという前向きなご意見もいただいております。長野市といたしましては、そういったご意見をもとに、地元でやっている産業フェアとかそれぞれの地域でやっている産業フェア等への企業の出展等を促して、そういった機会を拡大していきたいと考えております。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。これまでも東京とはつながっていたわけですから、そういう観点で、どうしても巨大な東京対小さな自分のまちということなんですけれども、反対側につながることによって、今までにない東京を介さない流れが生まれてくるのが実は大きな効果を持っている。これは、それぞれ東京を中心に放射状に動いている新幹線の沿線の方々も、これでネットワークが広がるに従って、それぞれお感じのことではないかと思っております。函館市長は当初から、東京よりむしろ途中のほうとの連携を大事にしたいとおっしゃっていましたが、東京経由ももちろんそれは引き続きあるわけですが、お互いに東京を介さないネットワークをつくることで産業の展開の可能性を探っていきたいというお話でございます。

さいたま市のほうでは、これに対してどうお考えでしょうか。

○清水座長（さいたま市長） さいたま市も、今おかげさまで、政令市の中では本社機能が、この10年間で出と入りを調べますと、横浜に次いで2番目にたくさん新装していただいている状況があります。と申しますのは、一つは、東北であったり、上越であったり、信越であったり、そういったところに今、工場であるとか、生産拠点を持っている会社が、都内から少し移ってきて、さいたま市あたりにあると非常に便がいいということで移ってきていただいているという傾向もございます。さいたま市の場合、既に生産拠点としては、一つは場所がもうないというのが現実としてありまして、むしろ、そうした本社機能であったり、あるいは販売拠点であったり、あるいは研究開発機能というのが中心となると考えておりますので、その中で東日本のそれぞれの自治体の皆さんと連携しながら、より大きなマーケットであります首都圏マーケットに対して、いろいろつないでいくという役割を果たせるのではないかと私たちとしては考えておりますので、これからまた、もちろん市内の事業者もありますけれども、いろいろな形でそれぞれ地域の皆さんとマッチングができたり、販路拡大のご協力ができたり、そんな機会をできればさいたま市としてもつくっていきたいと考えているというのが一つです。

それから、あとはちょっと全体的なお話でいいますと、今回、ちょっとまとめみたいな話になってしまいますけれども、大変具体的でたくさんおもしろいアイデアのご提案がありましたので、フォーラムを何かしゃべって終わりという形ではなくて、具体的に今日出てきたいろいろなお互いに連携できるチャンスをぜひ次につないでいきたい。継続的にそういった取組について協議させていただいたり、あるいはまた議論させていただいたりといったことを継続的にやらせていただければとも考えております。ぜひフォーラムの継続をさせていただきながら、具体的ないろいろな事業について、全部の地域でやる分もあるし、それぞれ2都市間でやるといったケースもあろうかと思っておりますけれども、具体的にそれぞれの市にとってプラスになることがこのフォ



ーラムを通じて一つでもできればと、そんな思いを持っています。

○藻谷ファシリテーター ありがとうございます。今のお話しになられていること、皆様のご発言をちょっとまとめますと、全国を相手にアピールするということで、東京に全日本から集まってやるという機会は当然ありますし、皆さん、やっていらっしゃる。世界にアピールへ行くのもいいでしょう。ミラノに行かれるのもオーケーと。ですが、東日本が連携してやったことにより、東日本の連携と打ち出してやったほうがいいケースというのもあるわけですし、従来、それをすっ飛ばして、いきなり全国の次は我がまち、我が県ということになりますと、実はその間にすき間があって、ポテンシャルがあるのではないか。東日本の地域で連携して、東日本として打ち出す、あるいは東京の北側として打ち出すということに意味がある。そういうときに東京の中心でやってしまいますと、そこに大阪や名古屋が出てきて、話もはっきりしなくなるのですが、埼玉でやったり、あるいはもしかして持ち回りで皆さんの市でそれぞれやっていくということであれば、この東日本独自の課題や特色についてより打ち出しやすいし、わかりやすい。さいたま市さんも、なかなか土地がないので、すごく埋まっていますけれども、ポテンシャルは非常に大きいですよね、コンベンションとしての。そのようなものも含めて、そしてさいたまですと、実は新宿、東京、横浜、全部直通で電車が走っているものですから、実は意外に東京の人も集まりやすい。そういうものを生かして、ここをひとつ、東日本のこの範囲内を拠点に、さいたまを中心に、拠点に、いろいろな商談会、販路開拓、産業支援機関の相互利用もしくは拠点の設置、そういうことをしていったらどうか。それに向けて、まずはこの会自体、お忙しい中で皆さんお集まりいただいて本当に大変だったのですけれども、事務方の方が勉強していただくことも含めて意味は大きいと思うので、これを継続して開催できないかというお話かと思えます。

お戻しします。いかがでしょうか。

○清水座長（さいたま市長） まとめていただきまして、ありがとうございました。今のご提案について、いかがでしょうか。

（拍手）

○清水座長（さいたま市長） ありがとうございます。それでは、そのようにまとめさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。

では、最後に藻谷先生からもう一回まとめをしていただければと思えます。

○藻谷ファシリテーター 今日、私が非常に申し訳ないと思っておりますのは、もう時間がかかり過ぎてまいりました。これだけの方がお集まりいただいて、人によっては全部の分野にそれぞれにご発言の内容があるということが私はひしひしとわかるだけに、絞ってご発言をいただいているということをもものすごく心苦しく思えます。ただ、これは、ただでさえ中身の豊富な東日本の新幹線沿線のまちの中でも、手を挙げてご提案をちゃんと書いてご参加いただいている市の市長さんだけでございますので、どうしても中身が豊富になります。本当に申し訳ございません。

ですが、これはさわりでございまして、こういうことを全国一元でやってしまうと、さらに薄まります。かといって、既存の県の中とか、例えば東北だけ、北陸だけというのはもう十分あるわけですが、もう少し広がりのある広域連携があったほう

がいい。たまたまさいたま市さんがこれをホストすることによって、新幹線で結ばれた地域の特徴が、共通の特徴、花とか、いろいろなものが浮かび上がってまいりました。これをぜひ継続して掘り起こして、そして南のゲートウェイさいたま、北のゲートウェイ新潟や富山、金沢などがありますけれども、函館もあります。活用をそれぞれいただいて、ぜひ世界の中にきらきらと光る東日本にしていきたい。現状は、やはり京都や福岡といったキャラが立ったものを持っている西日本のほうが世界的なアピール度は先行しているのですが、西日本出身者の私が申し上げるのも恥ずかしいんですが、実力的に言うと、産品の實力、人間のまじめさ、いろいろなものの体力では東日本はすぐれていると思います。ただ、それは東京に全部吸い取られて見えなくなっているだけでございます。ひとつ東京を少し脇に置いたこういう取組をふやすことで、東京ではない、東日本独自のきらきらをもう少し増していきたい。京都、福岡、広島を十分にのげるんです。そのような美しいまとまりがここから始まるのではないかと思っております。

市長、いかがでしょうか。このあたりは、そういうことがこの宣言に盛り込まれているかと思えます。

○清水座長（さいたま市長） 今回フォーラムをやるに当たりまして、事務方のほうでも少し各市の皆さんとご議論をさせていただいたものをたたき台にして、フォーラム宣言というのをつくらせていただいています。せっかくの機会であります。こういった形で宣言であったり、あるいは具体的ないろいろな事業に結びついて、形としてきちんと残していくというフォーラムにしていきたいと思っておりますが、皆さんのお手元に「東日本連携・創生フォーラム宣言」ということでお配りしておりますが、これらについて、このような形でフォーラム宣言をまとめさせていただくことについて、何かご意見等はございますでしょうか。よろしいですか。

（異議なし）

○清水座長（さいたま市長） そうしましたら、こういう形で3点に宣言をまとめさせていただいておりますが、こういった形で今日の東日本連携・創生フォーラムの宣言としてまとめさせていただきたいと思えます。また、各テーマごとにいろいろな具体的な事業とか提案がございましたので、それらについても事務方のほうで後ほどしっかりとまとめさせていただきまして、今後どのような形で取り組んでいくか、こういったことについてもまたそれぞれの市のほうにお話をさせていただき、動けるところから着実に動いていく、進めていくということにも取り組んでいきたいと思えます。よろしいでしょうか。

（異議なし）

○清水座長（さいたま市長） では、どうもありがとうございました。（拍手）

○司会 ありがとうございます。清水座長、参加自治体の皆様、ありがとうございます。そして、ファシリテーターの藻谷浩介様、ありがとうございます。

藻谷様は、次の講演があり、これで退席されます。皆様、拍手でお送りください。

（拍手）ありがとうございます。

続きまして、ご来賓から総評を頂戴したいと存じます。

まず初めに、経済産業省関東経済産業局局長鍛冶克彦様、よろしくお願ひいたしま

す。

○鍛冶経済産業省関東経済産業局長 ご紹介にあずかりました関東経産局長の鍛冶でございます。今日はこのような非常に貴重な機会にお招きいただきまして、ありがとうございました。

お話を聞いておりまして、大宮駅という一つの拠点をシンボルにしまして、関係自治体の首長様がこんなにたくさんお忙しい中をお集まりになって非常に活発なご議論をされて、全体を企画されました清水市長の構想力と、お集まりになりました市長様たちのお気持ちに本当に敬意を表する次第でございます。

今日の1時間半のフォーラムを伺いまして、私ども関東経産局のやらせていただいていることにも大変関係することが幾つかございまして、二、三ご紹介申し上げますと、最初のほうのテーマで広域観光の問題あるいは地域資源の問題がございましたけれども、福島市長もおっしゃっていました絹は、今私ども関東甲信越1都10県の中に絹織物あるいは絹に関連した産地はたくさんございまして、富岡の製糸場の世界遺産指定を契機に、何かこれをうまくつなげて、統一ブランドあるいは販路開拓、広域観光ルートの策定ができないかなと検討中でございます。今日のお話も踏まえまして、関東圏を越えて、さらに東日本の方々との連携もしたいなと思った次第でございます。

それから、南砺市長様のお話にも出ていましたオリパラ、これも私どももちょっとアイデアを出させていいただいて、今350の首長さんが集まる、まさにオリパラを活用した一大地域振興の取組をしようではないかということございまして、今私ども経産省を挙げまして、来年度のいろいろな予算要求も含めて、本省も含めて本腰を入れて検討中でございます。これもうまくご活用いただけたらと思っております。

それから、広域拠点の話で新潟市長からもお話が出ました。まさに、例えば新潟とさいたま・大宮を南と北のゲートウェイにして、関連地域の食とか、いろいろな伝統工芸品の振興とか、いろいろできるなと感じた次第でございます。九州経産局に負けられないように、我々も頑張りたいと思っております。それから、お話は出ていなかったんですけれども、大宮のすごいところは、隣に皆さんおりますけれども、国の支分部局が全部集まっておりまして、実は国の支分部局同士の横々の連携も最近大分進んできておりまして、これも一つ、さいたま・大宮の資源として有効活用できるのではないかなと思った次第でございます。

そのような感じで、いろいろきょうのお話に刺激も受けましたし、また関東経産局あるいは国の支分部局としてお手伝いできることをぜひやらせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。（拍手）

○司会 ありがとうございます。

続きまして、財務省関東財務局金融安定監理官小鞠昭彦様です。よろしく願いいたします。

○小鞠財務省関東財務局金融安定監理官 ただいまご紹介いただきました財務省関東財務局金融安定監理官の小鞠でございます。よろしく願い申し上げます。

本日は東日本連携・創生フォーラムにお招きいただきまして、まことにありがとうございました。活発なご議論を興味深く伺わせていただきました。どうもありがとうございました。

また、皆様には日ごろから関東財務局の業務運営に格別なご理解とご協力をいただきまして、この場をおかりして厚く御礼を申し上げる次第でございます。

ご案内のように、地方創生は、先ほど冒頭、石破大臣の講演もございましたように、政府の最重要施策でございます。政府の一員であります私ども財務局といたしましても、地方創生に積極的にご協力申し上げることを本年度の最重要課題と位置づけてございます。

関東財務局を含めました全国の財務局は、地域金融機関の監督を行っておりますが、ことし6月に閣議決定されました日本再興戦略2015では、地域経済の活性化を図る観点から、地域金融機関は、企業の財務面あるいは担保保証に必要以上に依存することなく、企業の事業内容や成長可能性を評価して、企業の経営改善・生産性向上を支援するような融資のアドバイスを行うなど、企業・産業の成長を支援していくことが求められているわけでございます。加えて、地域金融機関は、多くの地元企業と接しており、経済的な知見を有していることから、各自治体の総合戦略策定に積極的に参画するとともに、各自治体が策定した戦略・施策の実行を支援することが期待されております。関東財務局におきましても、各金融機関に対して、地方創生の取組に積極的にかかわって支援していくようお願いしているところでございます。

地域金融機関とか経済団体からは、地方創生がより成果を上げるためには、それぞれの自治体の皆様方が地域の特性を生かしつつしっかり取り組んでいただくこと、これはむろんでございますけれども、広域的な連携を必要とするという指摘をよく聞くわけでございます。まさに本日、そういったことで新幹線で結ばれた東日本の各自治体の皆様方が一堂に会して意見交換を行って、先ほどまさにお話に出ましたように、いろいろな連携をして、観光客を一緒に誘致していくことに取り組んでいく。それから、地域の資源をまさにコラボして売り込んでいく。そういった広域連携・相互交流を積極的に取り組んでいただけるといった話を伺って、さらには、各地が強みを生かして、経済拠点を共通で設けるとか、そういったことでビジネスチャンスを連携して創出していくことに積極的に取り組んでいかれるという話をお聞きして、非常に感銘を受けたところでございます。先ほどウイン・ウインの関係という話も出ましたけれども、各地の方々がそれぞれの強みを積極的に生かしながら、相乗的にいろいろな効果を上げて発展されていかれることを期待している次第でございます。

今後とも、各自治体の皆様方の取組がさらに増して連携して、東日本、さらには日本全体の地方創生につながることを祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。（拍手）

○司会 ありがとうございます。

続きまして、農林水産省関東農政局次長永嶋善隆です。よろしく申し上げます。

○永嶋農林水産省関東農政局次長 関東農政局次長の永嶋でございます。本日はお招きいただきまして、大変ありがとうございます。

また、フォーラムの宣言をされて、非常に有意義なフォーラムであったと思っておりますけれども、キーワードはやはりそのところに書いてあります「連携」と「創生」ではなかったのかなと思っております。

実は、関東農政局は、今日のテーマに関連する食を初めとしまして、農山漁村の振

興を担っております。具体的には、都市と農村の共生対流、いわゆるグリーンツーリズムとか地域間交流、それと六次産業化というのを担っております。そういう観点から今日の討論を聞かせていただきましたが、幾つか非常に心に残るものがございました。

まず、修学旅行の話が出ましたけれども、実は小学校・中学校・高校の約1割以上が、農村に行つて農業体験を長期にやっております。農林水産省も、文部科学省、総務省と連携して、子ども農山漁村交流プロジェクトといったものもつくらせていただいております。また、農業と企業トップのプロモートを有利に進めるための米・野菜の品目別の役割分担とか、大陸への農産物輸出に関してのウイン・ウインの関係をつくる連携の話も出ました。また、産地直送とかアンテナショップ、それと産業フェアといった広域連携の話も出て、さいたま市さんからこういうマッチングの機会をつくるというお話も出てきたわけでございます。このように、かなり具体的な広域の連携の話も出てきましたので、我々も持ち帰りまして検討させていただきたいと思っております。

新幹線の延伸によりまして、ここさいたま市は結束点として、かなり広い範囲で時間と空間の壁が低くなって、人と人との交流や物の交流はもちろんのこと、目に見えない情報の交流とか、コミュニティ、文化、こういったものが形成されることになると思います。このような中で、いろいろな人や物、情報が集まる結束点としてのさいたま市の役割がますます大きくなっていくのではないのかなと思っております。ぜひ、これらのヒト・モノ・情報をうまく化学反応させていただきまして、ただ単に集まるだけではなくて、ぜひとも今回のフォーラムのようにどんどん発信していただければありがたいと思っておりますので、どうかひとつよろしくお願い申し上げます。（拍手）

○司会 ありがとうございます。

最後に、国土交通省関東地方整備局副局長藤井健様、よろしくお願ひいたします。

○藤井国土交通省関東地方整備局副局長 国交省の藤井でございます。今日は本当に貴重なフォーラムにお招きいただきまして、ありがとうございます。

今日のフォーラムのテーマは地方創生ということですが、地方創生の一環の中で、今、国土計画の改定作業を進めております。首都圏の国土計画というのは、首都圏広域地方計画というもので、これは、今日新潟市さん、福島市さんの市長さんが来られていますが、福島県、新潟県まで入れたグレーター首都圏、1都11県の知事さんと、それから地方の代表から成る協議会がありまして、その協議会で今案をつくって、最終的には国で決定するというところで進めております。この首都圏計画の一番重要なテーマというのが、一極集中の是正という問題です。日本が厳しい国際競争に勝ち残っていくためには、やはり東京の機能を強化していかなければいけない。しかし、東京の機能を強化する中で一極集中が進んで、首都直下が日々迫ってきている。どんどん日本のリスクが高くなっている。東京の機能強化と同時に一極集中を是正するというのは、どうやってやるのか。首都圏の中でも一極集中が進んでおります。どうやってやるのかというのが大きなテーマになっておりまして、ちょっとお手元の資料にこんな1枚紙をつけさせていただいていますが、それに対する答えというのが対流だとい

うことになっています。対流というのは、温度差があると、ここに循環が起こるとい  
うのと同じで、地域で違う個性があって、それが連携していくと、ヒト・モノ・情  
報・知識というものの循環が起こっていく。これが一極集中とは違う構造になるのだ  
ろう。こういう一極集中型の首都圏を対流型首都圏にして、それを全国にどうやって  
広げていくかというのが、今の首都圏計画の大きな課題になっています。

そのためには、いろいろな連携の固まりをつくっていくというのと、その対流を外  
に広げていく拠点が必要でありまして、その拠点と固まりをつくっていくということ  
で、その中で、ちょっと裏をめぐっていただきますと、東北圏・北陸圏・北海道連結  
首都圏対流拠点というものを今回の中でプロジェクトとしてつくろうということが、  
今この協議会で議論されております。これは実は、これまで戦後6度の国土計画があ  
るのですけれども、国土計画の中でこういうプロジェクトが国で決定されるというの  
は今までありません。ですから、これは初めてのこととなります。

それから、今日藻谷さんが冒頭おっしゃいました氷川神社の足元で13の市長さんが  
こうやって集まった、今日は歴史的な会議ではないかといった話がありましたけれど  
も、市長さんたちがこうやってお集まりいただくというのもまさに本当に初めてのこ  
とだと思います。まさに初めてのキャンパス、初めての舞台というものがつくられよ  
うとしている。どうやってそのキャンパスにどういう絵を描いていくのか、その舞台  
でどういう夢を生み出していくのかというのが、まさにこれからの課題ということな  
んだらうと思います。

今日、藻谷さんが、東日本連携・創生フォーラムというのをもっと世界に存在感が  
あるものにしていかなければいけないと。これは日本の構造を変えます。それから、  
いざ首都直下が起こったときに、この13の市長さんたちがみんなで力をかしていただ  
いたら、首都圏の多くの国民が助けていただけるという希望が見えてきます。そうい  
う意味からも、このフォーラムをさらに発展させていただくように内容を充実させて  
いただいて、そしてその内容を実行していくということが非常に重要だと思ってお  
りますので、今日のキックオフを私ども国交省も、先ほども経産局長さんがおっしゃ  
いましたけれども、国の機関も全部今さいたまに集結しておりますので、皆様方と一緒  
に力を合わせて、今日のフォーラムのいろいろな決議が実現していくように、応援さ  
せていただきたいと思っております。

今日はありがとうございました。（拍手）

○司会 ありがとうございました。

ご来賓の皆様、ありがとうございました。

続いて、フォトセッションに入りますが、ここで一旦休憩とさせていただきます。  
再開は17時となります。よろしくお願いいたします。

（休 憩）

○司会 皆様おそろいになりましたので、これよりフォトセッションを始めさせてい  
ただきます。まだロビーにいらっしゃるお客様、そして会場の後ろのほうにいらっし  
やるお客様、前のほうの席が空いておりますので、ぜひお詰めになってみてください。

それでは、座長であります清水勇人さいたま市長東日本連携宣言の読み上げをお願  
いいたします。

皆様、ぜひ壇上にお上がりください。よろしくお願ひいたします。  
○清水座長（さいたま市長） では、読み上げたいと思います。

### 東日本連携・創生フォーラム宣言

本格的な人口減少社会を迎え、地方創生を成し遂げることが喫緊の課題である今日、新路線延伸・開通に伴い、首都圏、北陸、上信越、東北、北海道の各経済圏は飛躍的に広がり、新しい繋がりが本日生まれた。

地域が持続可能性を有する社会の実現に向けて、我々自治体は多様な個性を発揮し、各地域の魅力を協力して国内外に発信するとともに、経済団体、産業支援機関等と相互に協力し合い、次の共通認識のもと、市域を越えた広域的な連携を推進することで、地域間の絆を強化し、地域社会の持続的成長・発展に継続して取り組んでいくことをここに宣言する。

#### 1 地域資源の相互活用による、相乗的な地域活性化の促進・交流人口の拡大

人口減少による消費市場の規模縮小は、地域経済の縮小を招き、住民の経済力の低下、ひいては地域のにぎわい喪失につながる危険性をはらんでいる。広域連携による物産、文化、祭、イベント等の地域資源を相互に活用し、観光客誘致に向けた共同発信、事業承継のための文化交流など、ヒト、モノ、情報の交流を促し、多様で相乗的な地域活性化に取り組んでいく。

#### 2 経済活動促進のための広域的取組の実施

取引機会の拡大や販路開拓、連携によるイノベーションの創出などは、地域産業が事業活動を継続し、成長力を確保するうえで非常に重要な取組である。各地域の自治体や経済団体、産業支援機関等と顔の見える確かな関係を構築し、連携を容易にすることで、新たな事業展開を創出するとともに、多くのビジネスチャンスを生む支援策・仕組みを実施していく。

#### 3 新たな可能性、地域課題解決に向けた連携

今後の社会情勢、地域事情の変化により新たに生まれる課題の解決や、地域の活性化に向け、前例にとらわれず新たな可能性を見出すべく、広域的な連携を実施していく。

平成27年10月26日

東日本連携・創生フォーラム

座長	さいたま市長	清水	勇人
	函館市長	工藤	壽樹
	青森市長	鹿内	博
	盛岡市長	谷藤	裕明
	秋田市長	穂積	志

福島市長 小林 香  
郡山市長 品川 萬里  
新潟市長 篠田 昭  
高岡市長 高橋 正樹  
氷見市長 本川祐治郎  
南砺市長 田中 幹夫  
金沢市長 山野 之義  
長野市長 加藤 久雄

以上でございます。

みんな一緒に頑張っていきましょう。（拍手）

○司会 ありがとうございます。

それでは写真撮影を行います。報道各社、記録撮影などを行う方は、よろしいでしょうか。お集まりください。

（写真撮影）

もうちゃんとポーズをとっていただいていますね。ありがとうございます。

それでは、宣言書をお持ちになって撮影をお願いいたします。

すみません、予定では、後列の方が手をお互いにつなぎ合って万歳という形で手を挙げていただくというのもあったのですが、いかがでしょうか。すみません。いいですか。前列はクロスということですか。はい。

ありがとうございます。（拍手）

それでは、共同記者会見を行います。

では、まず幹事社からご質問をお願いいたします。

皆様はそのままです。幹事社の方はいらっしゃいますか。

○読売新聞 今月、さいたま市で幹事社を努めています読売新聞のカネコと申します。よろしく願います。

まず清水市長にお答えいただきたいんですけども、改めて大宮の駅の重要性について伺いたいということと、今日具体的な相談窓口の設置とか、いろいろな提案があったんですけども、具体的に、今後これをしていきたいというものがあれば、そういうものを伺いたい。

○清水さいたま市長 今日改めて、大宮駅の重要性と伺いますか、それぞれの地域をつなげていく大変重要な役割があるということを改めて私たちも痛感しましたし、今日は、それぞれの地域の有力な市の皆さんで、しかも基礎自治体ということで、かなり皆さん、具体的な提案をたくさんしていただきましたので、このフォーラムが一つのきっかけとなって、全体としてやっていくことと、それぞれのグループというか地域でやることと、それぞれテーマごとに分かれてやっていくことと、いろいろパターンはあるかと思っておりますけれども、具体的にいろいろな事業、取組をぜひ開始していきたいなと思っております。

○読売新聞 その中で具体的に相談窓口を設けたらどうなのかといった話がありましたけれども、これについては今後具体的に検討されていく予定なんではないでしょうか。



○清水さいたま市長 そうですね。いろいろ、例えば修学旅行のプレゼンのお話とか、いろいろ具体的な提案もありましたので、それらも含めて設置させていただいて、それぞれの自治体のほうにまたご相談をさせていただきながら、そういったことができればと思っております。

○読売新聞 ありがとうございます。市長全員に伺いたいところなんですけれども、時間もないので、こちらで何人か当てさせていただいて、今日が初めての開催ということもありまして、今日こうやって集まって連携を具体的に検討したことで何が見えて、何をしていきたいのかということを一言ずつ伺いたいんですけれども、まず函館市長、お願いします。

○工藤函館市長 今日のフォーラムでも申し上げましたが、私は非常に期待しているのはこの東日本ゴールデンルートをつくるということで、お隣の青森の鹿内市長と一生懸命今その構築に頑張っているところです。東京が中心にはなるのですが、東京とは都市間連携というのができない。東京都がほとんどなので、都市間連携の中核になるのは大宮駅のあるさいたま市さんかなと思って、今回非常に有意義なフォーラムを開いていただいたなと思ってますので、これを契機に、東北新幹線・北海道新幹線の沿線だけではなく、新潟へ向かう上越あるいは北陸といったところとも大宮駅つながりで連携していければと思っています。

○読売新聞 ありがとうございます。

次に、青森市長、お願いします。

○鹿内青森市長 青森市長ですが、実はちょうど去年の今ごろ、函館市長と私と、それから私どもの八戸市長、弘前市長の4人で清水市長さんのところに伺って、何とかこちらを拠点として首都圏あるいは北関東との連携をということでお話をしたら、1年後にこういう形で実現して、本当にありがたいなと。その際にJR東日本の大宮支社のほうにお伺いさせていただいて、いろいろな取組のお願いをしました。それが今日のお話にも出てきました。本当にありがたいなと。

それからもう一つは、隣が盛岡市長さんであります。私ども東北の県庁所在都市6市で東北六魂祭、これは、今年は秋田で、来年は青森で開催いたしますが、そういう東北六魂祭の東北6市が、東京23区特別区のご支援を今年の秋田市の開催からいただいていたまいりました。したがって、この東北6市、まさに東北がある意味では首都圏23区とのつながり、そしてこの大宮がその中間といいますか、拠点といいますか、そういう面では、さらに具体的な取組をしていきたいなと思います。

ありがとうございます。

○読売新聞 ありがとうございます。

次に、盛岡市長、お願いします。

○谷藤盛岡市長 盛岡市長でございますけれども、大宮駅が北陸、上越、そしてまたこれから函館までつながって、それぞれ新幹線を中心に、人の交流を含め、文化、それから祭りというものが大きな人の交流を生み出していくポイントでもあるのかなと思っておりますので、そういうところも含めて、ぜひこれからも大きな役割を果たしていく拠点になってほしいなと思っております。

○読売新聞 次に、福島市長、お願いします。

○小林福島市長 福島市長の小林でございます。本日は、参加できて本当によかったと思っております。東北、そしてこの福島県、福島市も東日本大震災・原発事故の影響を受けて、まだこの被害が深刻な状況でございますけれども、本日の会合に参加いたしまして、道路のつながりだけではなくて、鉄道のつながりというのも、人の交流において極めて重要な役割を果たすものだとということを改めて認識したところでございまして、ぜひとも今後、本日参加の自治体の皆さん方としっかりと連携して、東北、そして福島の活性化に努めていきたいと思っております。

以上でございます。

○読売新聞 ありがとうございます。

次に、新潟市長、お願いします。

○篠田新潟市長 新潟は、本州、日本海側の唯一の政令指定都市ということなので、首都圏、太平洋側が災害に遭ったとき、これに最も強力で支援ができる地域の一つだと、「防災・救援首都」ということを標榜しております。そういう面では、さいたま市さんと既に災害時の相互応援協定、そして高崎市、前橋市とも結んでいる。先日はいわき市とも結んだ。この横断軸をしっかりさせておくこと、それが、日本海側がもし災害を受けたときには、逆に太平洋側の皆さんから応援をいただける、そういう国土強靱化に資するネットワークもできるのではないかなと思っております。

ありがとうございます。

○読売新聞 すみません、これが最後なんですが、金沢市長、お願いします。

○山野金沢市長 先ほど教育旅行の話が出ました。新幹線がつながったことによって、僕は市長になってから毎年1回、金沢市内の小学校の校長先生を集めて講演をしているのですが、毎年、「京都・奈良もいいけれども、被災地という表現は大変失礼なんですけれども、東北のほうに修学旅行を」と言っています。新幹線ができたことによって増えていきますし、同じように東北方面から大宮乗り換えで北陸に教育旅行にたくさん来ていただくことによって、僕ら大人はもういいんです。子供たちにしっかりとそのことを認識してもらおうということが大切かなと思いますし、北陸には、先ほど来言っていますように、このエリアで子供たちが学べるところがたくさんありますので、そういうきっかけになればうれしいなと思っています。

○読売新聞 ありがとうございます。幹事社からは以上です。

○司会 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

以上をもちまして、東日本連携・創生フォーラムを終了させていただきます。

長時間にわたるすばらしいご発言、ご議論、ありがとうございます。

いま一度、舞台上の皆様には大きな拍手をお送りください。（拍手）ありがとうございました。

なお、この後、交流会を18時より1階「寿」で行います。さらなる東日本の連携に関する議論、そして皆様方の懇親を深めていただければと思います。

今日はありがとうございます。（拍手）